

【NIE実践指定校：実践報告】

効果的な新聞活用の実践を通して、互いを認めながら、自分の思いや考えを豊かに表現する子どもの育成を図るにはどうしたらよいか。（２年目の実践）

曾於市立大隅南小学校 校長 大庭安孝

1 研究主題のとらえ方

- ①「互いを認めながら」（コミュニケーションの力、道徳心の育成）
- ②「自分の思いや考えを豊かに表現する」（思考・判断力、表現力の育成）
- ③「効果的な新聞活用」（指導法改善の手段、言語活動としての「新聞活用」の在り方）

2 N I E 2年目の実践にあたって（１年目の反省から）

（１）児童の実態

- ①「読む」「読み取る」力に課題がある。

諸学力調査及び普段の学習問題において、長文の内容を理解しないまま勝手な解釈で回答する傾向が強い。

- ②「話す」（表現力）に課題がある。（本研究の柱）

各種行事や取組後の自分の感想等を表現する場で、全１１名の少人数の中でもなかなか意図の伝わる表現ができていない。他校との集合学習でその傾向が顕著であった。

（２）実態からみる課題の要因

- ① 文章を「読む」「読み取る」時におさえていくべき「５Ｗ１Ｈ」や「主述関係」に着目しないままの「読み」及び「何が分かっている」「何を聞かれているのか」の理解不足が考えられる。
- ② 自分の思いや考えの根拠となる部分の表現体験の不足（何を、どのように表出すればよいのか）が考えられる。

（３）課題解決に結びつくN I E効果

- ①「５Ｗ１Ｈ」文型の基本に基づいて書かれている新聞記事を日常的に読み、記事内容について教室や校内放送等で知らせることで、文章を「読み取る」力を育成できると考える。
- ② 新聞記事の「読み」の中で、「事実」と「解釈」、その「根拠」をおさえる機会をもつこと、及び普段の学習の中で、必ず「考え」と「根拠（理由付け）」のある発表をすることで、「表現力」の育成と意欲付けをすることができると考える。

3 研究の仮説

仮説１ (授業での実践)	新聞記事を「読んで」、内容を「理解する」場を設定することで、教科等の学習のねらいに即した新聞記事活用の見通しをもつことができるのではないかと。 (新聞記事を活用した授業の実践)
仮説２ (家庭との連携)	家庭との連携を図り、新聞記事や投稿する作品について、家庭でのコミュニケーションの場を設定することで、児童の表現することへの意欲が向上し、表現力が高まるのではないかと。 (ファミリーフォーカス)

4 N I E 研究の視点と計画・方法

N I E の積極的な取組の推進（学習のねらいに即した新聞活用はどうすればよいか）	
親しむ・読む (考える)	○各学年・学年部の発達段階を考えたN I E 提案授業の実施（教科等との関連） ① 3・4年社会科複式 ② 1・2年国語科複式 ③ 5・6年国語科複式
環 境 づ くり	○新聞記事に対する思いや考えの掲示（週末N I E 課題：親子での取組） ○新聞記事を開覧・活用できる場の設定（新聞コーナーの設置） ○新聞に掲載された投稿作品や学校関係記事の掲示（学習への意欲喚起） ○曾於市や鹿児島県に関する記事の掲示（新聞記事への興味・関心喚起）

5 研究の実際

(1) 授業実践

① 3・4年社会科複式学習

学 年	3 年	4 年
単 元 題 材	わたしのまち みんなのまち 「わたしたちの校区の様子」	安全なまちづくりをめざして 「事故・事件からくらしをまもる」
ねらい	大隅南小学校の校区は、学校の周りに畑が広がり、学校よりも低いところに田が広がっていることが分かる。	事故を防ぐために、警察署は、事故の原因を調べたり交通安全教室を開いたりして、多くの人と協力していることが分かる。
展 開	 1 新聞を読み、世界の国名を見つけ、地図に色をぬる。(毎時の学習始めの活動) 2 学習のめあて「校区の様子をまとめよう」を立て、調べることを確認する。 3 校区の白地図を色分けする。 4 色分けされた地図をもとに、気付いたことを発表する。 5 校区の土地の利用の様子を確かめる。	 2 新聞から「事故」に関する記事を見つけ「どこで」「どんな」事故かを調べる。 3 学習のめあて「事故・事件を防ぐ取組にはどんなものがあるか」を立てる。 4 交通管制センターのはたらきについて調べたことをまとめる。 5 地域と協力する取組と、その意義を確かめる。
N I E の視点	○ 新聞の中から世界の国名や、その国の場所を見つけることを通して、社会事象に対する関心を高めるとともに、豊富な情報・語彙量の新聞のよさを感じ取る。 ○ 新聞の記事から「いつ」「どこで」「どんな」ことが起きたかを読み解くことで、記事の基本となる文型に親しむ。(文章の基本となる組み立て方にふれる)	

② 1・2年国語科複式学習

学 年	1 年	2 年
単 元 題 材	くらべてよもう 「じどうしゃくらべ」(光村出版)	まとまりに分けて、お話を書こう 「お話のさくしゃになろう」(光村出版)
ねらい	自分の作った自動車のパンフレットの内容から、よりよい見出し(タイトル)を考える。	1枚の写真から想像を広げて、会話や簡単な物語を作る。
展 開	 1 自分の作った自動車パンフレットを読み返す。 2 学習のめあて「パンフレットの中のことばから、みだしをかんがえよう」を立て、見出しを考える。 3 考えた見出しをお互いに発表し合う。 4 新聞記事の読み聞かせを聞いて、見出しを考える。 5 見出しを作る時の工夫を考える。	 1 新聞記事掲載の1枚の写真を見る。 2 学習のめあて「しゃしんからそうぞうできることを考えよう」を立て、学習方法を話し合う。 3 会話(台詞)・時・場所の視点をもとにして、写真から想像できることを物語に表す。 4 考えた物語をお互いに発表し合う。

N I E の視点	○ 学習のまとめの段階で、新聞記事にどのような見出しがつけられているかを確認することで、自分の自動車パンフレットの見出し作りに生かし、いろいろな見出しを想像する。	○ 学習の導入の段階で、児童の興味がわくような新聞記事の写真を教材として、様々な状況を考え、想像をつないで物語を作っていくことへの意欲付けを図る。
--------------	---	---

③ 5・6年国語科複式学習

学 年	5 年	6 年
単 元 題 材	事例と意見の関係をおさえて、自分の考えをまとめよう 「想像力のスイッチを入れよう」(光村出版)	筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書こう 「自然に学ぶ暮らし」(光村出版)
ねらい	「想像力のスイッチ」という言葉に着目して筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをもつ。	筆者の考えている「新しい暮らし方」と自分の考えを比べて、共通点やちがいに気付いて整理して書く。
展 開	1 学習のめあて「筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをまとめよう」を立て、筆者が「想像力のスイッチ」と表現した理由を考える。 2 筆者の考えをもとに、「想像力のスイッチ」に対する自分の思いをまとめる。 3 自分の思いを6年生に発表し、意見を聞く。 	1 自分が思い描く未来の生活を考えて発表する。 2 学習のめあて「筆者の考えている“新しい暮らし方”と自分の考えを比べてみよう」を立て、共通点やちがいを調べる。 3 調べて分かったことや考えたことをペアで話し合う。 4 自分のまとめたことを5年生に発表し感想を聞く。 
N I E の視点	○ 教材文そのものがメディアの見方・考え方について扱う内容であるため、実際の新聞記事を開きながら、筆者の考えを確かめたり自分の考えの根拠にしたりする。	○ 教材文のテーマである「環境問題」に関する新聞記事を事前に児童自身が収集しておき、学習において自分自身の考えをまとめる時の根拠として収集した新聞記事を活用する。

(2) 授業実践を通した言語活動としての「新聞記事」活用効果

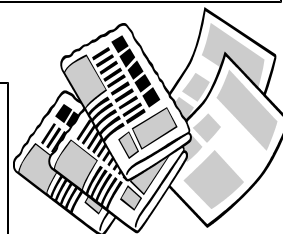
学習のねらいを達成するために新聞記事をいかに効果的に活用していくかを、授業実践を通して研究してきた。その実践を通して、学習に効果的に活用できる記事内容の種類と新聞記事から得られることが期待される資質・能力(新聞記事の特性)が見えてくる。

①教材として活用できる新聞記事の種類

語彙 5W1Hの基本文型 見出し・前書き・本文 起承転結 写真 国・県・市町村名
各種グラフ・表と数値 気温・天気 児童・生徒の作文・標語・川柳・詩 郷土の出来事
国内外の出来事・社会情勢

②教材としての新聞記事から得られる資質・能力(記事の特性)

- 事実・事象・考え方を知る・確かめる
- 比べる(記事を・数値を・写真を・同事象の複数記事を)
- 関係づける(記事を・数値を・写真を・同事象の複数記事を)
- 言葉・地名・国名・人名・郷土を探す・知る



- 数値を活用する
- 想像する（写真から・記事から・絵から）
 - 〃 （話を・場面を・人を・場所を・時を）
- 参考・模範にする、根拠・理由づける（自分の考えを）
- 調べる（出来事を・天気を・気温を・場所を・時間を）
- 意思決定をする
- 気付く（共通点に・ちがいに・広さに・深さに・大きさに・思いに）
- 批判・共感する（記事に・写真に・考えに）

資質・能力を高める活用を通して学力向上につながっていくはず！



（３）N I E環境

①学習したことの振り返りの設定

新聞の構成について学習したことや新聞記事を活用した学習の成果を学校内に掲示し、日常的に児童の目にふれるようにしている。

②週末N I E課題への取組を保護者と連携して実施

～ファミリーフォーカス（児童と親子の対話の誕生）～

毎週末は、全児童で週末N I E課題に取り組んでいる。

実践研究１年目は、家庭でのコミュニケーションの場づくりを啓発しつつも、一つの記事に対する児童の思いや考えのみの記録であったが、２年目はP T Aの重点実践にも設定され、児童だけでなく保護者の欄を設け、親子で一つの記事に対する思いや考えを語り合う場づくりを意図した取組になっている。

年度後半は、課題とする記事を児童が選んで実施した。個々の児童が関心を抱いている記事の内容も知ることができ、「互いを認めながら」課題に取り組んだ。

③新聞記事・コラム等を活用できる場の設定

新聞記事を活用して、いつでも「コラム」模写や「お気に入りの記事」、「投稿」作文を書くための様式が準備してある。

④新聞コーナーの設置と学校生活での新聞活用の推進

全児童が教室への出入りで必ず通る２階踊り場を利用して新聞コーナーを設置している。



朝の会で「今日（昨日）の出来事（ニュース）」発表に活用したり、関連する教科学習にいつでも新聞を活用したりしながら、日常的な学校生活に新聞活用が浸透できるようにしている。

⑤新聞に掲載された投稿作品の掲示

南日本新聞や市報などに掲載された児童の作品や、学校や校区の行事に関する記事を校内掲示して、自己有用感の育成を図っている。

6 研究２年を通した成果と課題

成果	○子どもたちの実態に応じて、「言語活動の推進」を中心においた研究に方向性を定めることができた。学習指導で新聞活用を図ることの目的は、教科等のねらいを達成する・高めるためであることを改めて確認することができた。 ○毎週末のファミリーフォーカスの継続を通して、家庭間の取組差が縮まりつつある。今後の継続実践が重要と考える。 ○新聞投稿をする中で、自分の作品が掲載されることによって、自己有用感や自己肯定感を児童に実感させることができた。
課題	○新聞活用を、だれが（対象学年）、いつ・どこで（活用のタイミング）、何を（活用記事）、どのように活用するかに重点を置いた具体的な研究と実践を重ねていく必要がある。 ○新聞活用についての児童の意識分析を通して、実態を明らかにしていく必要がある。 ○P T A活動と連携したN I Eの啓発と親子のふれあいを深める新聞活用を図って行く。